2023/12/22　みかん畑に雪が積もりました

謹賀新年 今年もよろしくお願いします

謹賀新年、今年もよろしくお願いします。
おかげさまで、今年で無茶々園は 49 年目の春を迎えることができました。これも皆様方のおかげです。ありがとうございます。コロナ禍、ロシアによるウクライナ侵攻、イスラエル・パレスチナ紛争、大規模な異常気象、円安も重なって食料・エネルギーの高騰をはじめあらゆる分野で価格高騰が相次ぎ、私たちの暮らしはより困難さを強いられています。

無茶々園も生産資材等の諸経費が高騰した影響で商品価格を値上げせざるを得なく、皆様にはご理解をお願いした次第です。また、人手不足が無茶々園でも顕著になりつつあり、物流の 2024 年問題や人材確保が今後の大きな課題となることが予測されます。このままでは日本の農業は成り立たなくなり、食料自給不可能な国となるのではないでしょうか。消費にどう影響するか全く予測できませんが、覚悟をもって取り組まなければなりません。

SDGS やエシカル消費といった話題が注目され、若年層を中心に他者への配慮や多様性の尊重、環境活動など持続可能性を尊重する機運が高まりつつあります。無茶々園 49 年の取り組みは評価されており、取引先や都市生活者との連携強化により乗り切れるものと考えます。

温州みかん

無茶々園の森 祝 設立

無茶々園の森での学習会の様子

2023 年を振り返ると 6 月に無茶々園のグループとしては 6 つ目の法人格「労働者協同組合　無茶々園の森」を設立しました。協同労働運営をグループ内に広め、地域に必要な仕事を創造するための法人です。例えば、デマンドタクシー（高齢者の交通）、不動産業（空き家問題、移住者用の住宅整備）、便利屋（家の修繕）など地域になくてはならない仕事おこしです。今後は定年退職者や移住者の受け皿としても考えています。併せて西予市が推進する公民館自治センター化（小規模多機能自治）にも参画していきます。是非無茶々園の里に来て頂き、町づくりに参加しませんか？

堆肥化して山へ

11 月には西予市の進める明浜柑橘加工場（あけはまシーサイドサンパーク株式会社が指定管理）が完成しました。大津が社長をしている第 3 セクターで、年間 1000t の搾汁と生産者別ジュースを主に製造していきます。併せて産業廃棄物として処理していたジュース粕を全て堆肥化し、「みかん堆肥」としてみかん山に返します。これこそ地域循環型農業です。無茶々園の加工プロジェクトを成長戦略としても進めます。↗

明浜柑橘加工場

堆肥場の様子

新しいことを進める

↘福祉事業では、事業継承したグループホーム明浜館の運営も順調に推移しています。ただ、高齢化による人口減少や重労働などの理由で介護の担い手不足が新たな課題となってきました。現在、海外農業技能実習生の経験を活かして、一昨年からベトナム介護実習生 3 名が共に働いています。

また、現在の光センサー施設の老朽化が進む中、コールドチェーン化を進めていくための新しい取り組みとして宇和町皆田地区に新物流センター建設に取り掛かりました。只今、造成工事（約 6000 ㎡）を行っており、2025 年 4 月稼働に向けて進めています。その他、環境活動として藻場バンクの取り組みもはじめました。無茶々園（佐藤真珠、祇園丸）明浜漁協、愛媛ダイビングセンターと協力してくろめの藻場を見守っていきます（詳細は裏面をお読みください）。これらは消費者の皆様との共感・協同して成し遂げられたと感謝しています。ありがとうございます。

新物流センター完成イメージ

現在、土地の造成中です

日本の政治は防衛力の強化や派閥の裏金問題など政治不信はますます増大しています。政治に期待しないそんなあきらめムードが日常化しています。一方で大谷選手らの活躍で野球 WBC 優勝や日本選手の活躍などスポーツ界は感動と勇気を与えてくれました。益々不安要素が絶えない 2024 年のスタートではありますが、楽しい明日が来ること信じたいと思っています。

2024 年の目標

2024 年の無茶々園は「幸せな人生を送るために、働き生活するのである」を基本の考え方とし「持続可能な地域社会へ（環境省の地域環境共生圏）、環境負荷を伴わない（農水省のみどりの食糧システム戦略）持続可能な農業へ、そんな無茶々の里モデルを仲間と消費者と共に築こう！」というスローガンを掲げます。そのため①柑橘生産量 3,000t 確保する（現在は 1,600t）②生産者への支払い単価の見直し③新出荷場建設④新柑橘加工場を活かした加工品開発⑤ベトナム事業開発⑥地域に必要とされる仕事おこし⑦50 周年企画記念式典（2026 年 4 月 3 日を予定）プロジェクトに取り組みます。2 年間で具体策を検討し、これまでどおり持続可能な地域社会を創造すること、そしてこれまでにも増して環境にやさしい農業（カーボンニュートラル・農薬総量削減など）を目指します。

⑦前回の 40 周年式典の様子

さらに、大津が提唱しているコミュニティ産直（新しい生産・消費の関係性）を具体化したいと考えています。これまでの産直は「生産者」と「消費者」、または「みかん」と「消費」の関係で語られていました。これからは「田舎」と「都市」または「地域」と「地域」を提携関係にするという事です。
わかりにくいとは思いますが、「モノとお金」の関係性ではなく、人・お金が循環し、地域経済が回る、人々の交流が回るそんなコミュニティ産直が「世の中のモデル」と言われるようにしていきたい。だからこそ、自分たちの将来を自ら創造し、安心して暮らせる地域を地域住民や行政と共同して作る必要があるのです。

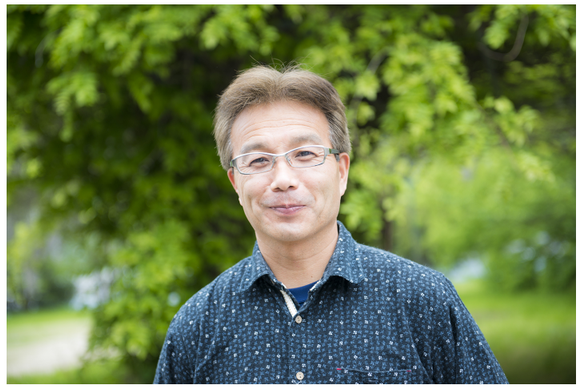
今後ともご愛顧のほど よろしくお願いいたします。

想像してみてください。この西予市明浜町の 2030 年の姿を！時間がゆっくり進み、だれもがのんびり生活している。ロボットや海外の人達もいっしょに生活している。リアルとバーチャルが共存し、人々は豊かな暮らしをしている。旅行で農村へ、都市へ、海外へ仲間のみなさんに会える。そんな社会を実現するためにも、多くの方たち（都市生活者や世界の人々）と「共感」し、つながることで少しずつ世の中が変わっていく。また「気候危機」は待ってはくれません。今からやれる取り組みから始めましょう。

みかん山では、何十年ぶりかの干ばつで枯れた木も多く出ましたが、糖度の高いおいしいみかんをお届けすることができました。来季の不作がちょっと心配されますがみんなで頑張ります。

無茶々園グループ全体で職員 145 人、関係する生産者 165 名、海外技能実習生 20 名で新年をむかえました。
無茶々園はこれからも「10年、20年後の未来の子どもたちのために、小さな多くの種まきをし、日本一の町づくり集団」を目指します。無茶々園でよかったと言えるように！どうか、皆様もこの田舎再生運動に参画して頂き、活力ある日本にしましょう。

株式会社地域法人無茶々園　代表取締役　大津清次



2023年の大問題は干ばつでした

水が足りず枯れてしまったみかんの木

無茶々園の柑橘栽培はこの数年でもいろんな問題、課題に直面してきました。ミカンナガタマムシなど新たな害虫の広がり。今年の２月にはこの明浜でも氷点下 4℃を下回る低温となり、春以降に出荷する柑橘に凍害・寒害が出て出荷量が激減してしまいました。毎年みかん山では予期せぬトラブルに見舞われ、何事もなく一年を過ごせた年はないような気がします。

今年の夏はひどい暑さだったものの台風による被害がなく、９月はじめまでは珍しいくらい健やかに生育を続けてきました。ところが９月以降、例年は秋雨や台風で降るはずの雨がほとんど降らず、みかんの収穫期を目の前にして厳しい干ばつに直面することとなりました。９月、10 月の降雨量は平年の 15%程度。特に 10 月 9 日以降はおよそ１カ月のあいだ降雨がなく、畑の土はカラカラに乾き、（特に潅水が難しい園地では）みかんの樹も葉や果実が萎れていまにも枯れそうな様相に変わり果てます。

この渇水のなか、スプリンクラーの潅水設備が入っている畑では継続して潅水が行われてどうにかみかんの樹も樹勢が保たれていました。1967 年に発生した大干ばつを受けて整備された南予用水の事業であり、愛媛のみかん作りを支える用水施設。整備が行われて 30 年以上が経ちましたが、秋にこれほど長いあいだ潅水が行われたことはありません。今年は水のありがたみを身に染みて感じる年になりました。

潅水の様子。潅水設備の作業は農家が協力して行う

干ばつがいったん解消したのは 11 月 10 日過ぎ。ようやく待ち望んだ雨が降って人心地つきました。一部では枯れてしまった樹があったものの、萎れていた樹も回復して植物の生命力の強さを見せてくれています。スプリンクラーの潅水も止まり、紙一重で温州みかんの収穫ピーク時期に入ることとなりました。

柑橘への影響は大きく、どの品種も肥大が進まずに小ぶり傾向となり、収穫量も当初の見込みよりは減ってしまいそうです。水分の吸収が少ないため果実の味はしっかりと凝縮して糖度が高くなりますが、同時に酸味も残りやすい仕上がりとなります。何よりも、干ばつで弱った樹が回復しきらなければ、翌年以降の収穫が低調になってしまいます。樹勢の回復にも気をつけながら、新しい春に向けて準備をしていく冬になりそうです。

長倉さんの農業体験記

【2023 年 9 月に埼玉から農業体験に来ていただいていた長倉さん(35 歳男性)が 11 月に 2 度目の来園。農業体験での感想をつづってもらいました。】

9 月に引き続き、今回が 2 回目のみかん農業体験となりました。元々みかんが好き、ということや、少し気分転換をしたい、それから農業の現場をいちど見てみたい、といった曖昧な動機ではありましたが、無茶々園さんには快く受け入れていただき、誠にありがとうございました。

体験では一か所ではなくいろんな農家さんに伺いました。前回の９月は収穫の始まる直前の頃で、摘果や施肥が作業の中心でした。また、今回は 11 月の下旬頃でしたが、みかんは橙に色づいており、収穫の最盛期でした。

体験した作業自体は難しいものではなく教えていただくことでやがて覚えることはできましたが、実際には農家さんや土地の条件などによって細かな部分に違いがあり、それらが味の個性として表れるようです。あとは気温や日照時間や雨の量。今年はとりわけ雨が少なく、果実はやや小ぶりなものが多く、味の濃い傾向となっているとのことでした。

今までみかん農家さんのお仕事がどのようなものなのか、具体的なことはほとんど何も知りませんでしたが、作業をすることやお話を伺うことでその中身をほんの少し知ることができました。そして理解したのは、（当然のことかもしれませんが、）みかんは決して何もせずにただ放っておいておいしくできるものではないということ。植樹、施肥、草刈り、枯れ枝落とし、摘果、防虫、獣害対策など…年間を通して数多の作業があり、それらをきちんとこなすことでおいしい実ができるのです。普段はお店に並ぶものを買って何の気なしに食べるというのがほとんどでしたが、自分自身で作業を体験してみることで、みかんの貴重さ、あるいは他の食べ物の貴重さというものを再認識した気がします。

明浜の石積みの段々畑はみかん栽培にとって良好な環境というばかりではなく、そこから見える空と山と集落と海の景色は美しいものでした。休憩時間、晴れて暖かな陽の中でそうした景色を眺めながら、たった今摘んだばかりのみかんを食べることはなんという贅沢であったでしょう。そこでいただいたみかんは素晴らしくおいしかったです。そして、そうした環境で丹精込めて育てられたみかんがおいしくならないはずはないな、と何となくそんな風にも感じられるのです。

これからの海のために 藻場 BANKの取り組み

西予市明浜町高山の海のなか。
※上記画像は愛媛ダイビングセンターブログより引用。
http://aquagate01.blog33.fc2.com/blog-entry-867.html

温暖化の影響により近年、ちりめんの不漁、アコヤ貝の大量斃死など海の環境変化を感じていますが、危機を感じながらも具体的に何をすべきかがわからない状況でした。このような中で、同じ宇和海で、藻場再生や環境活動に取り組む愛媛ダイビングセンター代表の中岡さんと出会い、気候変動適応対策として「藻場 BANK（もばばんく）」を設置することとなりました。藻場 BANK とは、人工的な簡易藻場礁を作り、温帯性の海藻（クロメ）を育て、藻場を増やしていく取り組みです。

左：野島さん（地域おこし協力隊）
右：中岡さん（愛媛ダイビングセンター代表）

中岡さんから聞いた明浜の海の現状は衝撃的なものでした。狩浜地区では以前からの温帯性の海藻の群生がありますが、僅か 2 ～ 3 ㎞先では熱帯性の海藻の群生が 9 割にも及び繁茂し、さらにはサンゴの群落へと置き換わりが進行しているそうです。サザエやアワビ、青魚などの漁獲高が減少という目に見える変化ともに、気候変動の最前線ともいうべき変化が進行している事実。この地域全体の課題解決のため、愛媛県漁業協働組合 明浜支所、愛媛ダイビングセンター、地域創り法人：一般社団法人地方創生機構、無茶々園で藻場 BANK の取り組みを始めました。↗

写真付きのブログ版もありますのでご覧ください

無茶々園の日々の様子を撮影した「無茶々美術館」もぜひどうぞ

藻場礁を設置し、海を守る

↘中岡さん指導の下、簡易藻場礁を作成し、明浜町の沿岸 3 か所に設置しました。設置した藻場礁は、三つの階層に分かれた組立式のスチール製ラック。一段目の階層は藻食性魚類の防護網（一部が開閉可能）にて周囲を囲い、二段目はスチール製ラックの固定に海底の石を敷き詰め入れ、三段目となる足部は海藻の食害を起こす厄介者ガンガゼ（大型ウニ）対策用の底上げスペースです。一段目の防護網の中に、採取した海藻クロメの株と、その株から秋頃に出る遊走子（胞子）を着生させる基質ブロックを敷き詰めています。設置期間は４年の予定。2～3か月に一度、藻場礁の掃除・手入れ、1 年後に遊走子の着生、芽吹き具合を確認等、定期的に経過観察、手入れを行っていきます。

明浜の海の環境を守るため、まずは藻場礁の中で海藻を増やし、藻場を広げていくことが目標です。クロメ等の海藻は陸上植物よりも炭素固定能力が高く、藻場礁は脱炭素社会におけるブルーカーボンの取り組みとしても注目されています。藻場が増えることで温暖化の進行の緩和も期待されます。また、クロメは多年生の海藻で、サザエやアワビの餌でもあります。クロメの着床状況によってはアワビの稚貝放流実験も検討しています。

設置した簡易藻場礁

越えるべき課題と新たな可能性

一方で、今後の活動をどう維持していくかという課題があります。藻場礁は水深 7 ～ 9m にあり、手入れ点検にはダイバーが必要です。今回の設置は、中岡さんと明浜町の地域おこし協力隊の野島さんにボランティアで行っていただきました。今後定期的な活動をしていくためには、その費用の捻出、何らかの形で収益化が必要と考えています。

藻場 BANK の取り組み自体が環境活動の最前線であること、また設置した藻場礁がどうなっていくかを観察していくことで、持続可能な社会の担い手を育む学びの場の提供、体験型教育ともつながります。観光振興、現在注目されているブルーツーリズムへ展開できれば、無茶々園によるグリーンツーリズムと合わせた地域全体の振興にもつなげていける機会であり新たな雇用を生む機会だと考えています。

海の環境変化、海水温上昇は、大雨や台風の発達、海面上昇による高潮の発生原因ともなり、柑橘栽培にも悪影響をもたらす恐れもあることを知りました。山を守ることは海を守ることであり、海を守ることは山を守ることなのです。